

報仇

金毘羅神靈記

五

~ 13
3324
5



門へ13
3324
卷5

繪本金毘羅神靈記卷五目録

海に食言罷を授ふ活

日八幡社地を利刀と傳ふ圖

婦に民若く佩刀を授ふ活

民若く妻女素性の活

日圖 其二

深女郷里を退く活



五十八日廿九
本大學出版部

繪本金毘羅神靈記卷五目録



伊弉册の仇と相入國

氏若湯の遠腹生虎の作

靈神弄障の作

寧遠和尙神託を夢る國

靈神核會と助中多國

紫女嬰児を主言勢を流る國

繪本金毘羅神靈記卷之五

壱に食言罪と掩小作

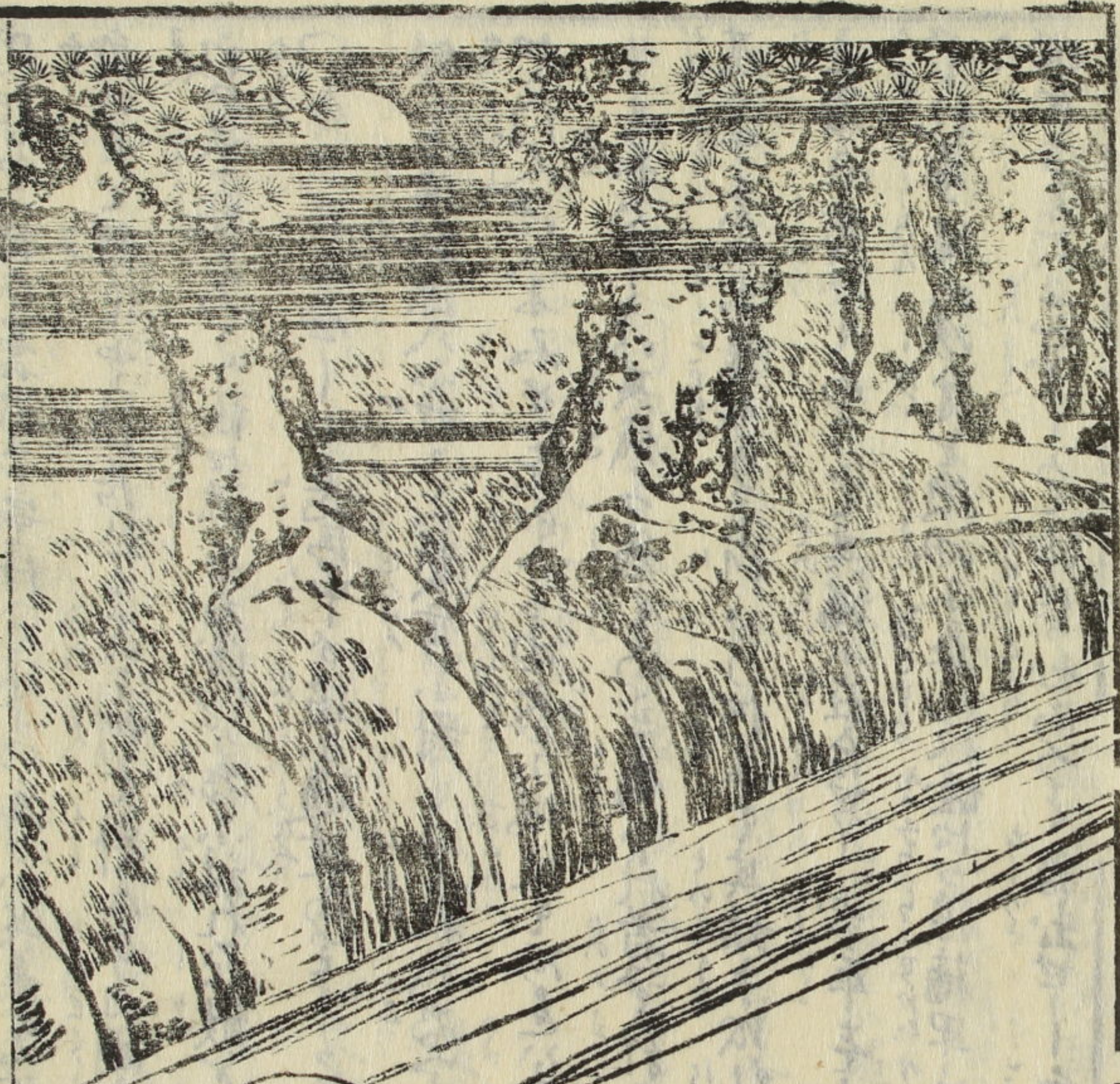
君子の過則改之小人の過る則順之唯順之の事あはれ又從く國を
 為ふとや爰小壱に源をたゆむる不料と爭論も固く民台源八次
 級害一終身の妨と爲るうや公裡密も恨む急死私身小帰今日午後
 遠野小壱を歸諸國府八邊宮の社前なるか折一と騎る馬物登し
 得く再表の月一駈へ作と發圖の歩率民台源八是孤智一にうりく
 不意の過失する有之断中つ下も只管せれの中孤云勇利格くの維
 言ふも己小狼藉の舉動もも或んやせ一にうり不得止幸切捨い有
 辨と巧小文言と據く一紙の口状孤徳先老臣中へ出せ一うら老臣中
 壱にがは伏の起し固く兎角の評議も乃よ主處に縣官長田藤九郎出

本つて今日國府八邊宮へ差出りて是より歩卒の内去屋内記屬民言
源八義堀は源去左衛門少尉に越只今場所より中紙の抄に取致は
源清房も及ひ有述けま六老屋中是と聞さる其儀も縁と堀口より
亦くの口状ありて種實否分難と云評議も及上折柄より被賜ふ
ての次才堀は口状も相違するや委一を申聞りて一と被書送
國はま六長田等と云巨細の記も兼及及び堀は源去左衛門
の内へ宗入りて民言源八堅固の役なりれども交結互本事論も及たる
相違これより由を中付老屋中長田申状も堀は口状も一般せ
久堀は事と武藝師能の身されば或法と礼と敬意も下馬犯べ
飲たり一全不意張るるも必せりたありふおいて一急の智もある意こ
處るれども強く率備も及ぶと号甲故辨る味ハが每れたりと

衆議一決一堀は口何の障りも源民言が記載も取致は源去左衛門
取付付多々門舎次引拂致は旨と屋内記へ達一あり且流去屋内
記も善器寺靈任の記を後く民言源八を屬下付被率とせしを
以來其人子の定符も付下宿願尋常に勝進何れも由あるもの
果なるんや思ひ一久義率に公と流長小妻公速一討も指別是を
一久又掃在共思小感一内記致立親の如く思ひ一久義に去屋が郵
に付く家事公助一久内記も高文不役と加一折を得く中源の士も
被權也とい一久義も率小縁も其能と試小皆衆人小勝れ就中武
藝小達一久今香門山中小義一職首と搦捕一功衆小起一久
其附の相没時存長去左衛門其働の次才と云上小及び一久義加
同及民言が勇と強く貴せられぬと被授ありての内命ありしは

源八義堀は源去左衛門少尉に越只今場所より中紙の抄に取致は

三



八幡の社港の
利カと傳ふ



内記うちきは小居こゑの書しよ形かたちも無任むじんの事ことの序ついでも其その素もと名な孤ひとり活いきり共とも小居こゑ若わかが出い
身みの目めと曉あやしむ居ゐる事ことも何なんぞ料しやうん今日こんにち國くに府ふ八はち岐ぎ官くわん小せう放はうくせ
礼らいの奉ほう勅とくあつては源げんを左ひだり邊へに留とどめ置おけり死し骸がいと執とり引ひ渡わり急いそぐ
門かど金かね成なり居ゐる上うへへも老らう居ゐる中ちゆうか遠とほく通とほ達たつあつて一ひとく内うち記き且かつ覺かくし
物もの人ひと格かく別べつ源げん八はち岐ぎ小せう放はうくせの貴き官くわん小せう對たいし置おけり死し骸がいと執とり引ひ渡わり急いそぐ
はる門かど人ひと源げん八はち岐ぎ小せう放はうくせを取とりて由よし密ひそか小せう風ふう説せつも何なんぞ事ことに任まかして去いちと福ふくせ
一ひとも知しらざる其その係けいを免まぬれずもあつて屬まかし下くだり者ものを死し骸がいと執とり引ひ渡わり急いそぐ切き捨すてり
某たれが平へい素その示し無む形かたちあつて小せう放はうくせ何なんぞも其その始はじめ末ま孤ひとり活いきり子こ細こ小せう周しゆうく小せう
立たち居ゐる事ことも何なんぞもあつて其その場ば不在あらな合あはせり一ひと歩い卒そつを人ひと孤ひとり活いきり小せう放はうくせ氏し若わか
それ事こと備びの次つぎ才さいと徳とく油あぶら小せう舟ふね向むかひに源げんは狼ろう藉せき早はや性せいの奉ほう勅とくせり一ひと歩い卒そつ
由よし白しろく事ことも何なんぞもあつて源げんは公こうあつて出いせり一ひと歩い卒そつを人ひと孤ひとり活いきり小せう放はうくせ

老居らうゐの雁かり幸さい小せう出いて源げんは氏し若わかが事こと海うみの次つぎ才さいと徳とく油あぶら小せう舟ふね向むかひに源げんは公こうあつて出いせり一ひと歩い卒そつ
幸さいと清せいと人ひと友とも已い小せう源げんは公こうあつて出いせり一ひと歩い卒そつを人ひと孤ひとり活いきり小せう放はうくせ
が若わか布ふ立たち居ゐる事ことも何なんぞもあつて其その場ば不在あらな合あはせり一ひと歩い卒そつを人ひと孤ひとり活いきり小せう放はうくせ
死し骸がいと執とり引ひ渡わり急いそぐ事ことも何なんぞもあつて其その場ば不在あらな合あはせり一ひと歩い卒そつを人ひと孤ひとり活いきり小せう放はうくせ
先まに居ゐる事ことも何なんぞもあつて其その場ば不在あらな合あはせり一ひと歩い卒そつを人ひと孤ひとり活いきり小せう放はうくせ

源は氏若く佩刀と持た活

源げんは氏し若わかが事こと海うみの次つぎ才さいと徳とく油あぶら小せう舟ふね向むかひに源げんは公こうあつて出いせり一ひと歩い卒そつ
膏こうと鼎てい中ちゆう安あん卧ゐる事ことも何なんぞもあつて其その場ば不在あらな合あはせり一ひと歩い卒そつを人ひと孤ひとり活いきり小せう放はうくせ
今いま日ひ事ことも何なんぞもあつて其その場ば不在あらな合あはせり一ひと歩い卒そつを人ひと孤ひとり活いきり小せう放はうくせ
社しゃ内うち事ことも何なんぞもあつて其その場ば不在あらな合あはせり一ひと歩い卒そつを人ひと孤ひとり活いきり小せう放はうくせ
面めん目め公こうあつて出いせり一ひと歩い卒そつを人ひと孤ひとり活いきり小せう放はうくせ

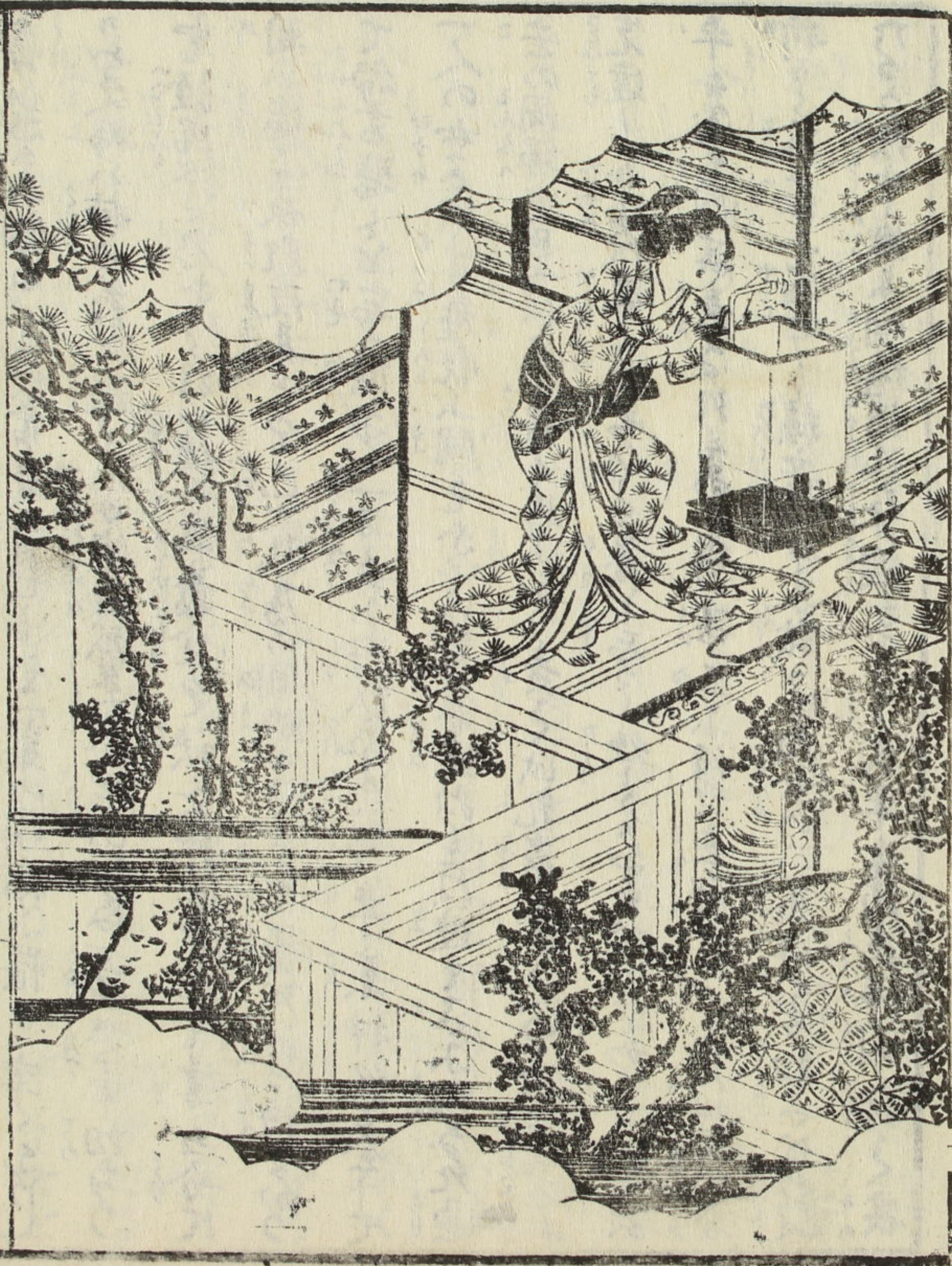
源は氏若く佩刀と持た活

沙汰ありては他人の以て家中の評判も如何なりや其疾を何れなく
復す其日勝爽小記を迫隣小姓俸一々唯獨家と出只當路成志は其
八樓の社内小むりえをれをきひしは白民告とてと過成其下此を撰
見ると業に遠れ那筆沙中不埋まありしと拾取之俸しする小側の海
中に榮く光物ありて是書て見る小精愛刀ありて上と熱視の草柄
みく他を早ふれと其長式尺守許せり背面小梵字成禱袂袋の形
をよよる尺重の恰好縁の音沸痕痒烟舊小動と巨好具是て抜群
の上他因瓜勢に許され六絨訂と抜く終く見る小若光の二字読あり
涯に大元小疑とて是とて是常の若の佩刀小ありは場前と云ふは余血
痕透われ六氏告源八がおろ小遠あると染棧別氏告要人が一族た
らん先と疑しが此の刀法此佩刀の税利とてく見る附る氏告が一族小

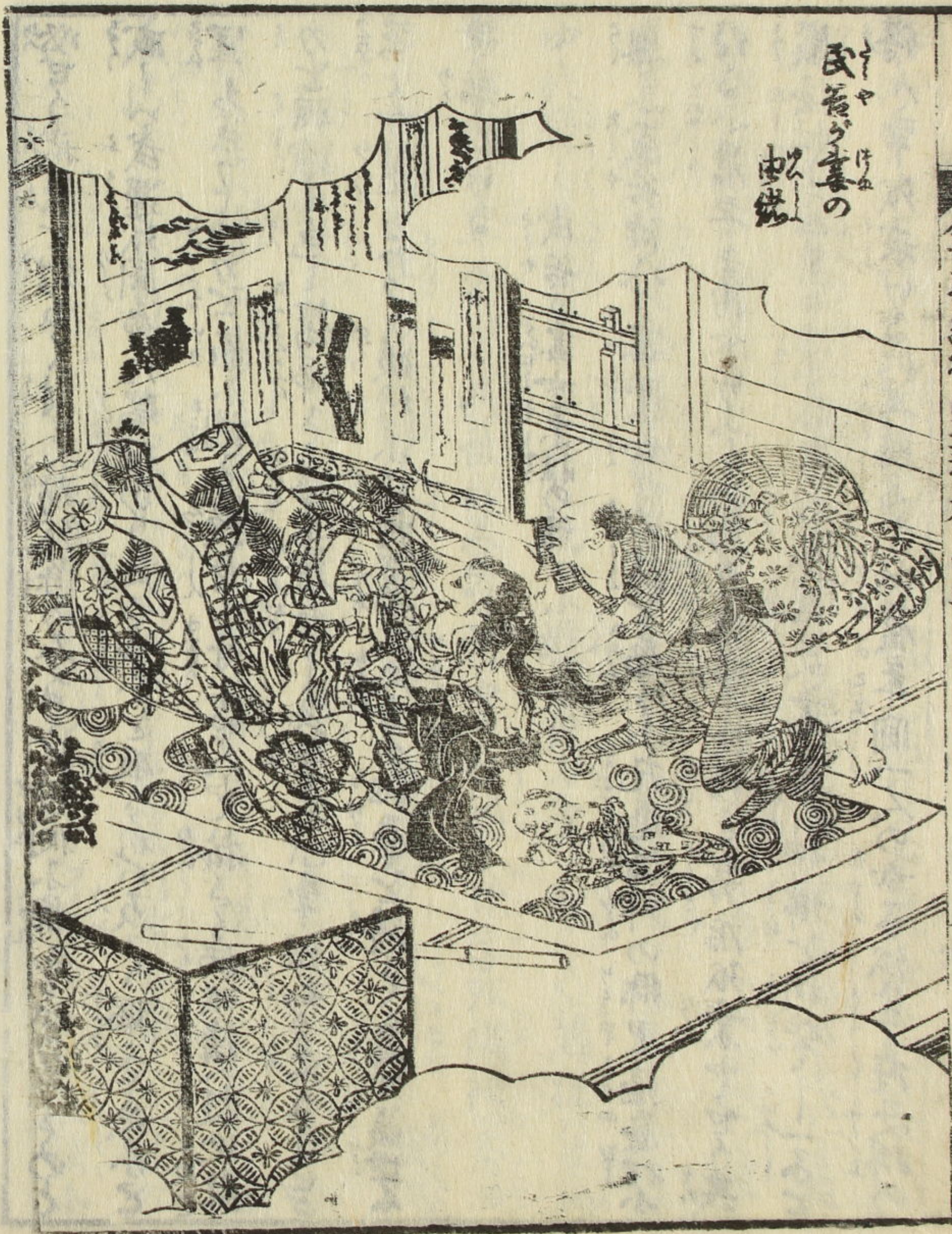
必甘く我渠と難く村と坊除のみるは世間小稀あるは刀我そのと
成り武運成固成は瑞相あり天の与ふと取され六及く福をよふと
軍あるは刀と家小納く終身の守小せんを扱する柄成隣へ投込
刀と洞獄小色と携佛と容小菴室一うをては幸成ある若さうり
陰うり見とたり後終小これ種がおろえする恥辱と得く真成後世本
を照しける

氏告が妻女未性の活

粵小氏告源八が妻潔女が由縁と為る小丸龜嶽外の郷里遠屋村小
住る小農平多清せりその初九巻帳下に住る客店成業せり其
歳強壯小は過せや未ふたは瓜患ま妻且夕神佛と祈せり一ふと
得ん幸成求けるに其駭めや西慶年同一人の女子瓜生を産み婦の



氏名の
由緒



夢ひぬ小物なく只管愛育せし二歳の頃病小罹り空くありし
うゑ夫婦の柿の花を散りて中玉孤女を思ひしは長哭せし切なり
を種隔てたりは後小焦意空を袂を縫ふ中も夢を分て
目小遊る夜に既果たるに己が乳房の圓勝なるまで夏夜海を待たり
て物悲しと忘る際なく一日夫小対ひ糸を綿年暮神仏と念して
一人の女子孤生産後小間をかくは憂小遠ぬ是は遣り子小縁ありて
去の因縁を思ひいさ長く思ひあり去りては乳房あり人の子とまを
先達し女子は蓮とも思ひく憂と忘る候ももをべしやかたけは
平き備も固其まるとあり候其言小短せ去居人の子孤捜求ふ
折る其家小宿せし穢客の中小賤うぬ女の二歳許ある幼子孤扱
たるは夜中俄小同帰懐札を額かきし平き湯を帰聞付く其

一團小むし見たり小怠病中見へく賤小幸切くの体おまは靈丹孤御物火
と絶ととども其駭なりは其子と妻小抱せ行李の内孤改りし小は
の合ふに雨の夜れあり枕邊小坐する竹枝の明晃くの方と雲蓋を
たり其他絶く物なけは何因りなる人を知ると候も平き湯も忙果
する愛小其妻幼子に夜れ小繕付し物と見出しは小こせり細のし
せぬく見しは後小く繕する少れも袋より肉小小牌ありて小佐
我れを那小捕守進御堂更女傑を書たり平き湯をみ替るる響く
思ふ孤白くは妻小對しし箱小佐我れに男支不齒の勇考りて
其孤を付し人なれば中を由ありたるは小送旅中死をありし
こを痛くはれさきは幼子小佐我れ後孤を枝落せばあかる
妻幸小成りんたりは只は傍知さざる旅人ありて沙汰して業を



金目川の風景



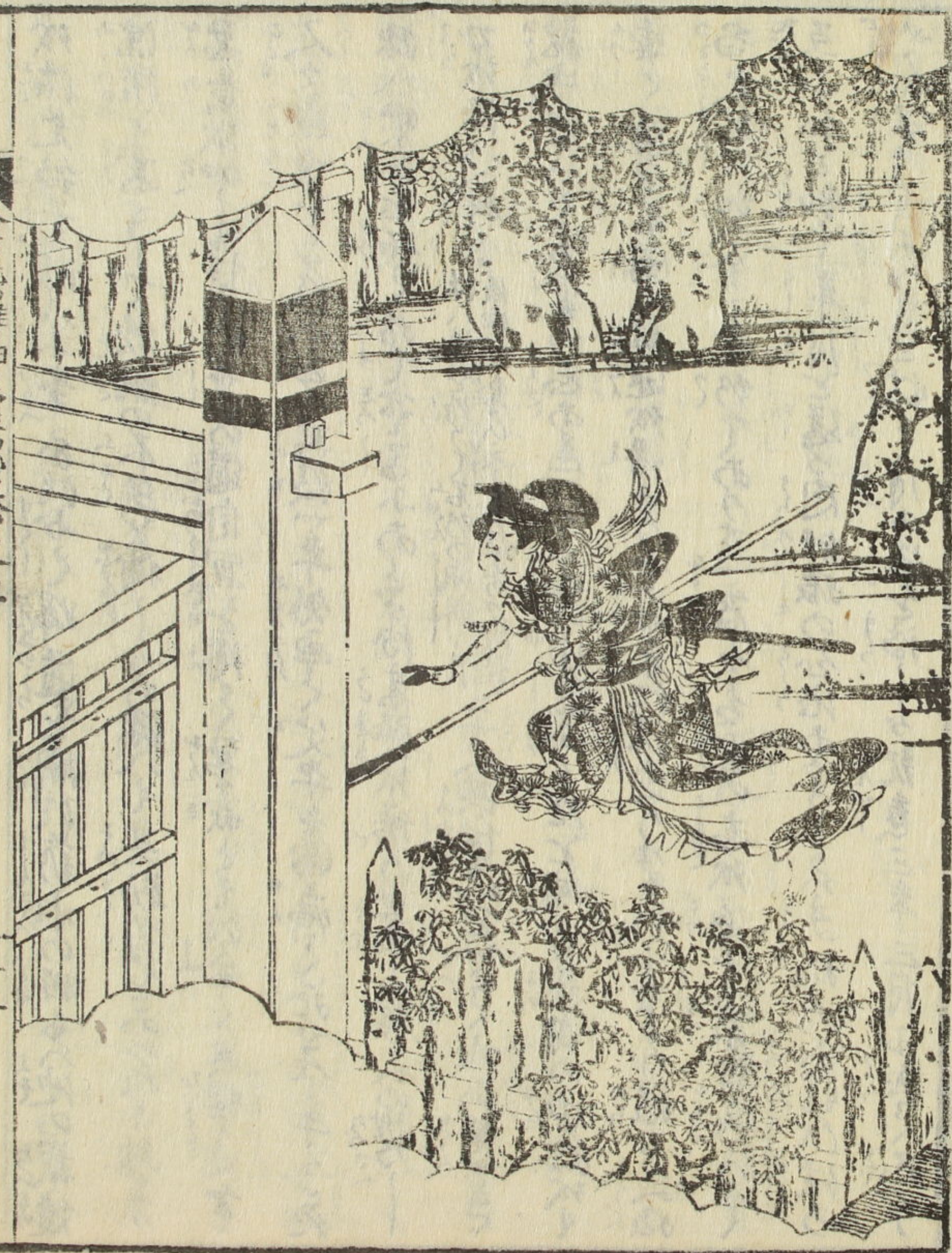
其二

金目川の風景

漸せ孤なほの家方うち小書こましく後うしろ小女こめ思おもく〜成長ちやうじやうの後のち存ぞんぐ武家ぶけ小
 家けはだけ候まう小踏頭こふみ小賦せ死にせ〜わんわん母ははの亡な霊たまは満まん足あしを移うつら〜せ
 り〜小妻こつまは元もと来きた悲かな悲かなを許ゆるぐ〜若わかう〜小頃このころ日ひ女め思おもく〜夫おつとい〜た〜ふ〜子こはは〜書かひ
 育をん〜せ〜奠むすぶ折をりう〜形かたち是こゝろ月づき小帳こやうび〜平ひら湯たう折をりく〜里さと心こゝろの方かたは〜け〜く〜積つみ人の死に去させ
 一ひと次つぎ身み又また其その子こ孤こ者ものを〜た〜た〜起おこす〜と〜違ちがは〜く〜幸さい存ぞんさ〜く〜海うみ一ひと心こゝろ小葬こむすぶ送おくの礼れいとい
 ざる〜と〜ま〜う〜後うしろ籠かご子こ孤こ返かへふ〜家け子こを〜か〜て〜育をん〜せ〜小成こなる人ひと小促こしむく〜才さい智ち人ひと小起こたけ福ふく小
 父母ちちうは孤こ者もの考こう順じゆんら〜幸さい存ぞんさ〜く〜迫おぼす〜賜たまへ〜る〜平ひら湯たう走は婦め夫おつと小帳こやうび〜愛あい一
 初はじめての〜を〜小〜似に似に似に親おや多おほ小情こじやうの〜縁ゆかりく〜あ〜ん〜事ことと〜帰かへり〜て〜書かひ〜わ〜る〜幸さい存ぞんさ〜く〜源げん今いま就
 の〜同どうなく〜教けう育いく愛あい情じやうと〜加かへ〜小〜格かく修しゆ業ぎやうに〜及およぶ〜戴たい縫ぬいの〜手て業ぎやうと〜及およぶ〜乃すなはけ〜例
 契せき後ごの〜縫ぬい巻まき小達くだつ一ひと且かつ答こた儀ぎも〜人ひと小優よ一ひと久く平ひら湯たう走は婦めの〜羅ら愛あい存ぞんさ〜く〜方かたと〜
 民間あまのこ小朽果くちうん〜う〜物ものと〜候まう家け出で一ひと運うんふ〜付つく〜嗣し君きみ少すくくも生せい産さんせ〜一ひと團

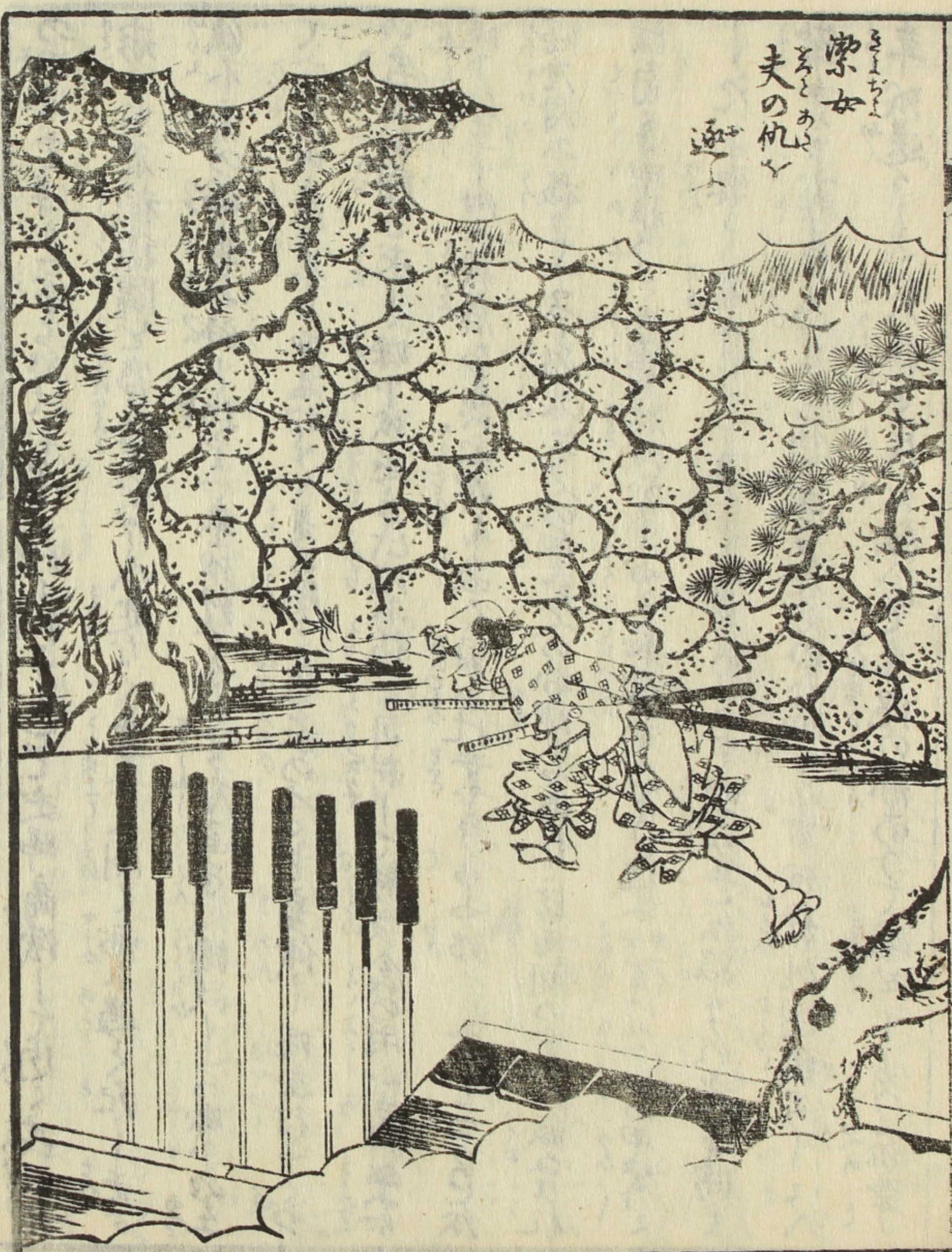
の母はは儀ぎを傳つたへ〜定さだむ〜事ことを〜此こゝろ小福こふくと〜私わたくしに〜せ〜と〜夫婦ふうふ高たか儀ぎ一ひとと〜其その後のち孤
 亦またも〜小福こふく後ご隣りんと〜指さし人ひと世よの〜う〜い〜定さだむ〜事ことを〜妻つま女め不ふ圖とも〜病やま小遇あひく〜死に一ひとま〜
 後のち不ふ立たの〜福ふく患あひお〜濟よく〜起おこす〜一ひと幸さい存ぞんさ〜く〜平ひら湯たう走は婦め夫おつと小帳こやうび〜愛あい
 て〜客きやく店てんの〜産うぶ業ぎやうも〜出で来きたが〜う〜是こゝろ小園そのも〜慈あわれ愛あいの〜人ひとと〜空こゝろ高たか儀ぎ一ひとと〜堀ほり屋や村むらを〜
 の宅うち中なか田でん圃ぼと〜求もとむ〜珠たま下した孤こ返かへす〜は〜堀ほり屋や村むらを〜自みづか耕かり〜て〜聊いささか夜よ食くの用もち小左さだ河か小女こ
 堀ほり下したに〜在あり〜付つけ〜客きやく店てんを〜六む奴に婢めれ〜多おほく〜堀ほり下したに〜在あり〜業ぎやうも〜あ〜り〜幸さい存ぞんさ〜く〜孤
 堀ほり屋や村むら小振ふるり〜て〜う〜ち〜に〜必かならず〜人ひとの〜奴に婢めと〜あ〜れ〜と〜皆みな田でん圃ぼの〜業ぎやうに〜假かりら〜れ
 け〜自みづかり〜甲こう斐はいく〜也や愛あい情じやうは〜一ひとお〜え〜和わ厭いと幸さい存ぞんさ〜く〜後ご不ふ立たの〜若わか女めの〜甲こう斐はいく〜
 一ひとし〜は〜小娶こめとりく〜妻つまを〜せ〜んと〜せ〜ま〜り〜り〜や〜業ぎやう女めは〜孤こ返かへす〜平ひら湯たう走は婦め夫おつと小帳こやうび〜愛あい
 業ぎやう女めが〜素もと姓せい尊たうが〜後ご不ふ立たの〜若わか女めと〜嫁よめせ〜ん〜幸さい存ぞんさ〜く〜孤こ返かへす〜平ひら湯たう走は婦め夫おつと小帳こやうび〜愛あい
 幸さい存ぞんさ〜く〜平ひら湯たう送おくら〜し〜小不こふ料らうも〜民たみ若わか婦め八やち也や赤あか繩しゆの〜縁ゆかりあり〜て〜嫁よめせ〜し〜あ〜り〜と〜孤こ返かへす〜

金田氏系記 卷之五



素女
夫の仇
逐

金田氏系記 卷之五



城治先初源八不幸死にけり婦道を剛に勤水の暇も他の裁縫
浣濯と業として炊烟の不足を補へる源八も其勤苦とあられり
恩意加し存小別業の道自宜を得る恩義ともいふに金く其時
人々感嘆とる及小初其後一年終事く父平常病く死せんとす
源八紫女と指く始て守る小あきと源八歴然終り曩小婦人の勢
刀城源八修源八は刀を修して石の佩料と二人其母法とけり小修さき
就中源八も志雲の志あき今妻の由結正たと聞くと其身の由結た
妻く源八不圖も好速孤得うやお手に候あつる好うより後と妻た
あ文親加今を我初てありた一度と妻雲の志孤逐く家と真んや
互ふ公と幼く年月と送る内妊娘の公地あうく久夫婦大小候た法の
かく保護加人身と惜く月の後を治うく親意三年三月と妻く巳子

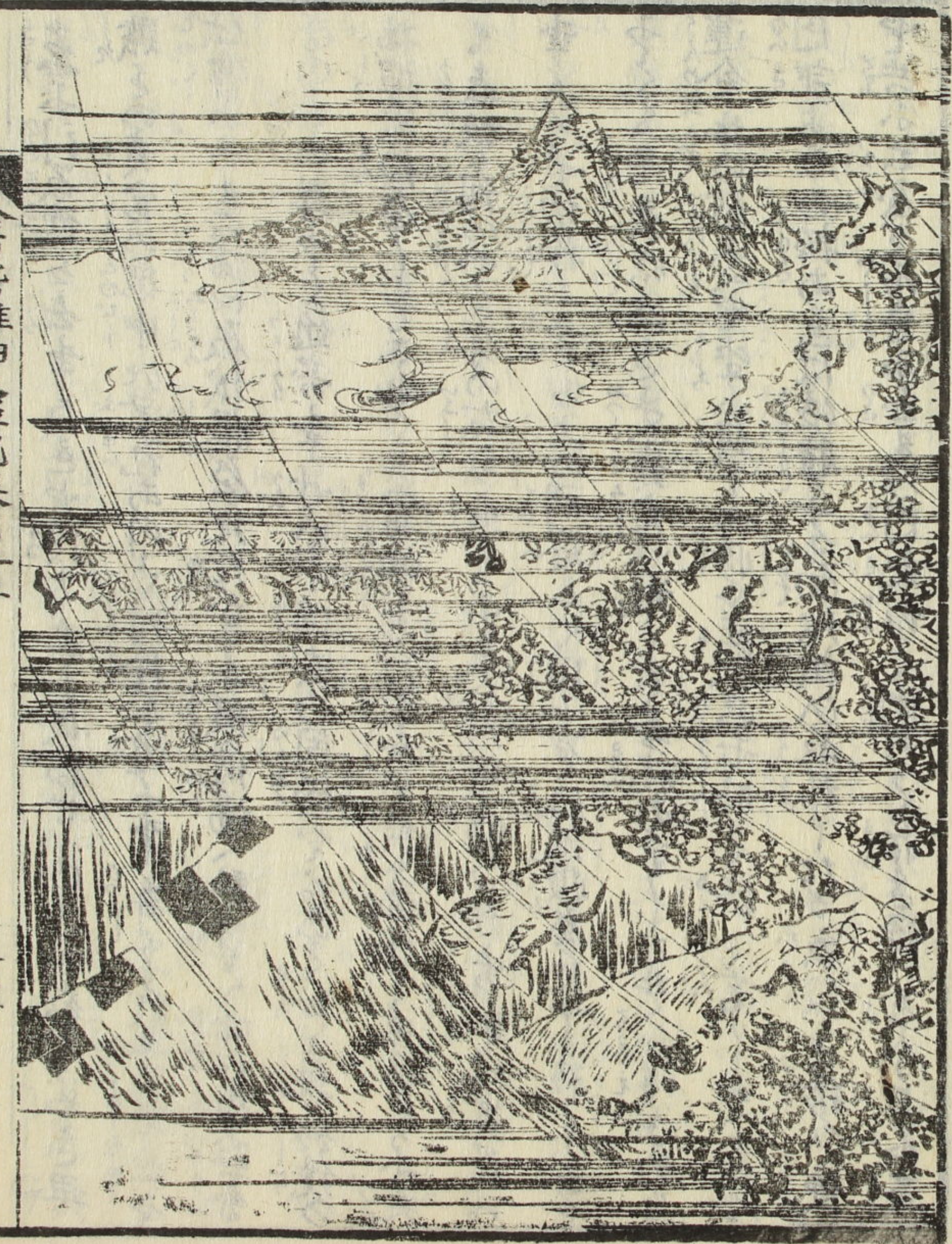
八月め我乃つべらる

紫女郷里小退く活

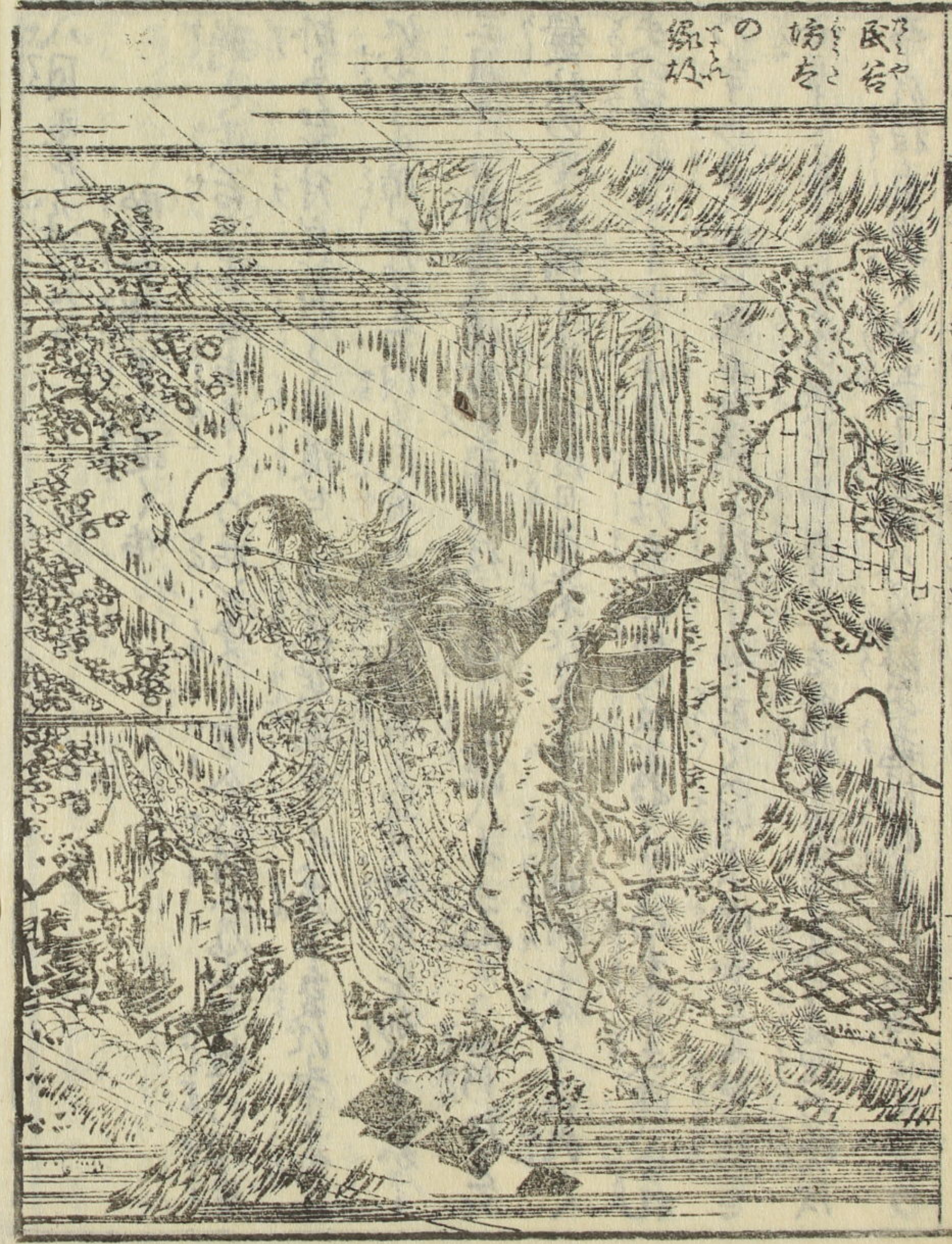
斯く臣が妻と去年より胎と受り方今八月小あきと源八
外ふ公と付身と惜く保護せり其甚堅固ありてあうく妻と勤う
にかしう障あけき六月う門合小連る後者とらた妊あつと初るうのか
三月十日國府へ後宮登園の役小當て夫源八も未た知りたまい
鑿炊の事孤瞻く小行付終日子業にうる目も子晡時小成く六たく
夫の場あきりや子業反は翁活飯の役と初うくは妻小夫源八た
乃幸ありて源八源八女小付れうや取くうの母小紫女た本誓た
女もくう後あれ夫の死うで駈付くうを付恨んうめいと文う友現の候う
あうく親氣のうく強出せうと源八が合登の龜板林うは体うとうり

全日七生申張並相巻

金田比羅神靈記卷之五



坂の坊を



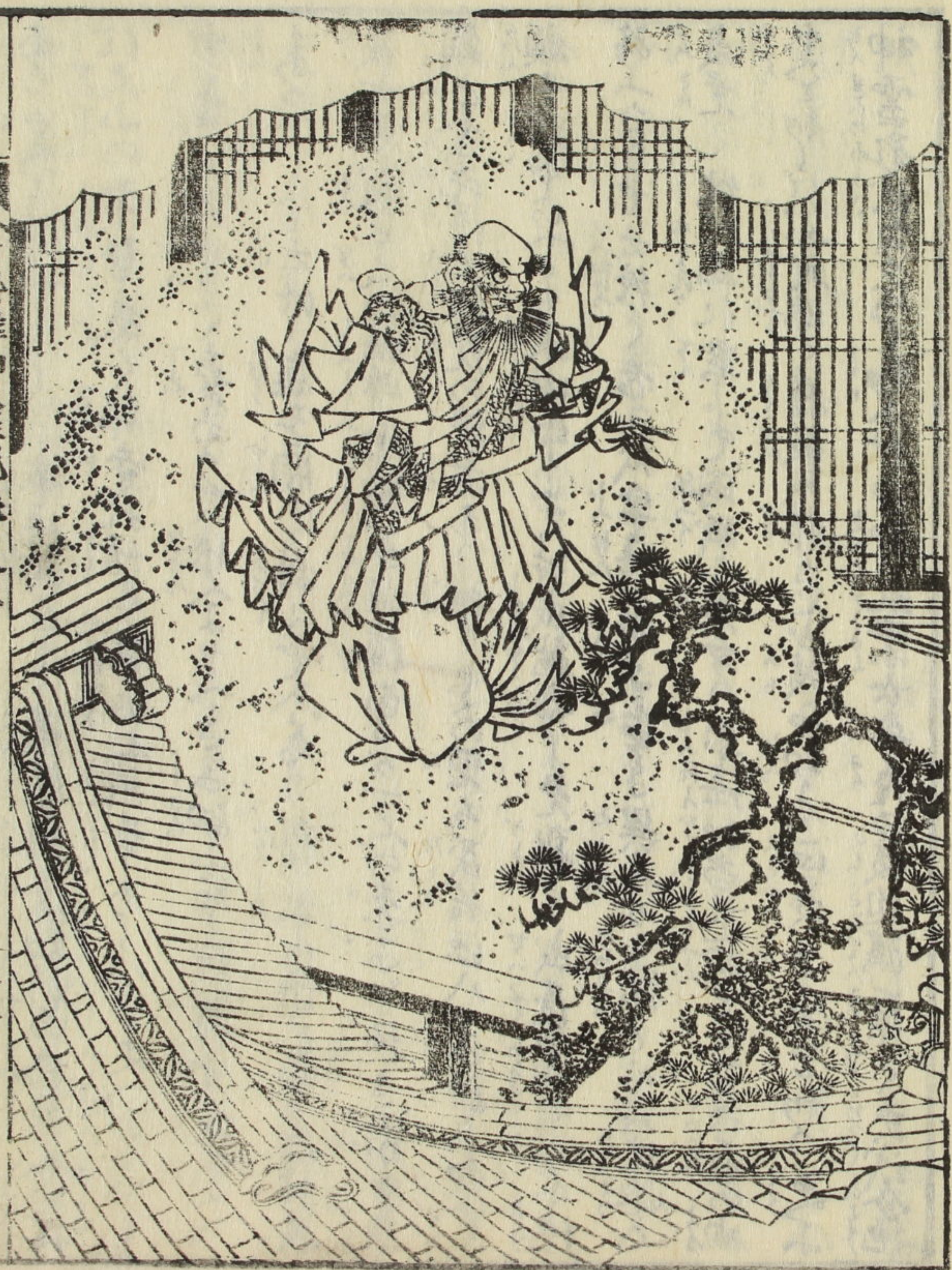
金田比羅神靈記卷之五

意小引教教と去事とまじはト家小技持せし所とどおとぐめと甲
 賊との貴官の衆中に置れおのく討捨小遊小幸奔うて平走とこわ
 は方小あまは海に及ん根屋に理か、被彼場へ馳付く、唯は及小會
 くの身少く近事幸叶ハト過去の因縁をさひくかを執執統の
 指揮及びをくせさぬぐ小宥恤く公案女ををと群群く思ひ及小実
 も龜坂が月のやく月の古も免もあま今甲斐とれた歩率けりるに
 幸ありて切捨小走と上の刑罰もトドを根根根屋に中り取くさ
 少くも平素懐涼と交貴官へ對して去礼ありてこそを得て是も
 運命持の致交を坐小懸との情と添と兵歩歩く涙小書く交小去座
 内記ありの拓あまは泣腫くる面涙拭ひ取れたる夜短と宿の使
 中昔小去座が居客小あまは内記形く例ちく拓と源八義今日石裏

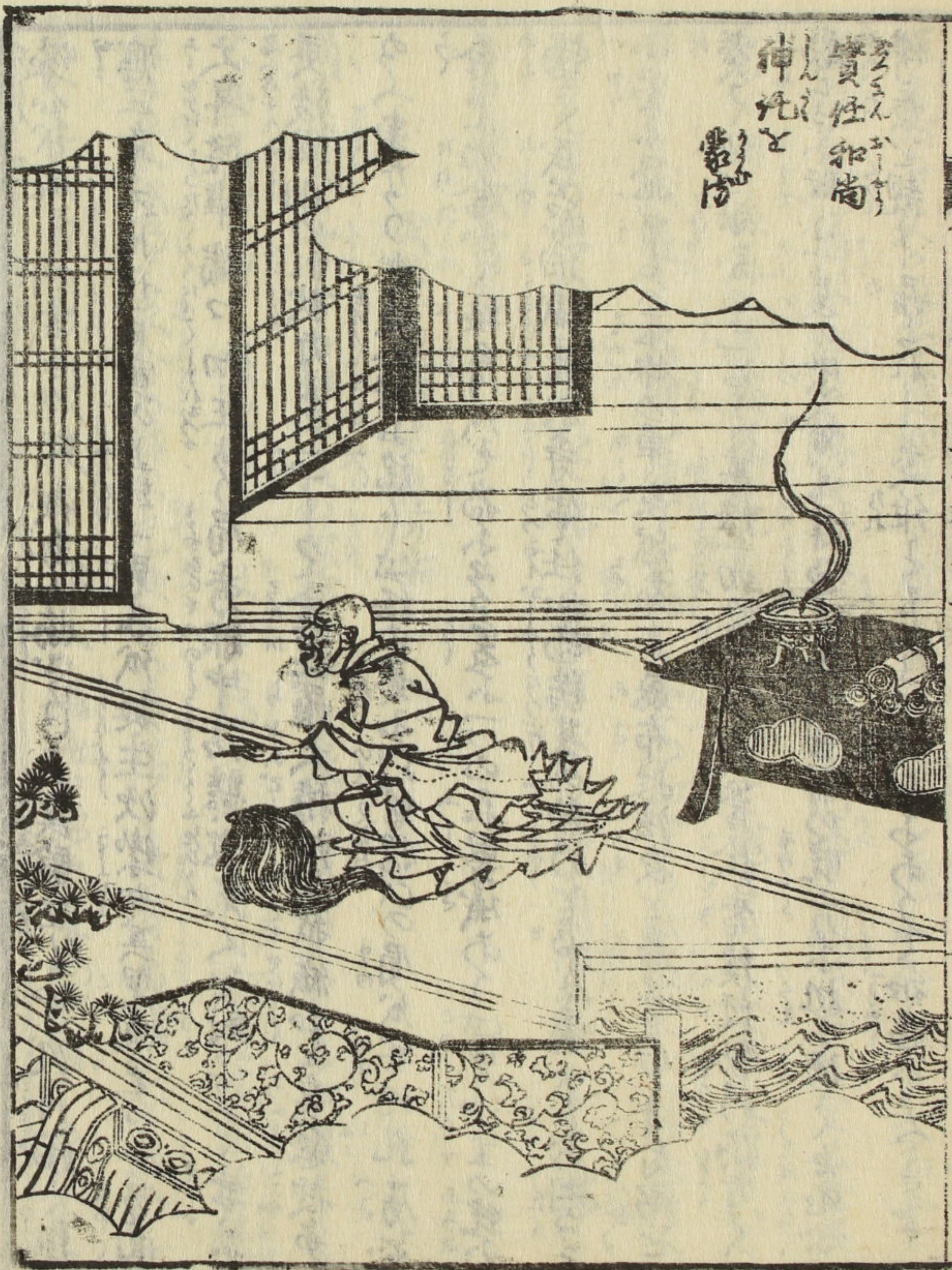
の死に遂ぐる事、世悲傷ありし、其も屬率の中にも頼とせしは、そのと
 喪ひ遺骸狗同中、通是を今に計をさ、御さく後、歎息をさるる已り
 又源八が骸を親親へ居せし、其も門全、瓜引おなをれの油、流るる依て
 遺骸を先遠く善願寺へ送り、さるる其方、養已小父と喪ひ、他小親、候も
 其れとの事、兼、聞及る、門全、引耕の幸、尚惑るる、と、同先、某、居
 等小、編、を、静、小、後、事、瓜、保、さ、る、再、婚、の、事、を、く、猶、生、産、と、送、り、さ、る
 ら、承、く、素、が、家、小、あ、つ、く、家、事、の、助、成、さ、ら、ば、是、亦、某、が、事、を、さ、る、是
 等の事、ハ、援、と、係、さ、る、先、速、小、門、全、引、耕、小、用、志、公、か、一、家、財
 運、持、の、ゆ、に、我、家、に、奴、僕、と、使、及、く、を、休、意、あ、く、之、聞、せ、け、は、案、女、を、
 手、と、喪、ひ、送、り、さ、る、夫、小、拘、あ、ま、は、去、座、が、釋、小、力、と、得、く、交、事、源、に、相、ん、で
 云、け、り、と、交、は、八、幸、平、素、承、く、思、下、さ、れ、格、別、小、接、引、成、り、これ、止、は

天晴時奉之大切小つて後者の汚用中も之をば物に思ひも執たれ小
不圖と考官へそ行状かへ使小舎を預け其所の犯を賭のこふあふん
朝廷の序名をそ汚ちて流石賊者の云甲斐を犯すにあらざるや山越つれ
なく残し毒事と勅さる汚癖を成下さるに懸謝しあるは色で
思をば毒孤縁と哭働し之を去るも殺りの激を押へて御道指さ
源八幸平素汚容討少く事起し沈軍勇氣あはれ女徳孔義と終
了れ壯士小あはれ所今の幸某源く異と毒く仇向しに金去る幸に
あはれ守に珍事幸はく垣口が狼藉甲斐小極さども味小幸定りし
後るれ小今文寛孤心まをさるも某もは孤縁と推其方が義と志さる
を不慮しけ音孤縁の國さるも必他云そ用さるこそは民皆が象海の
次方激細小若もは流さるも更小好も念の情を増せん念骨髄小徹された

為て色小も出さば作小波りせ今角と家財を取ぬぬ物事つて汚指
紙交進しや去を交塚小腹孤若門舎小源は源八分使中の男を事法
とを替ぐ身つて力と付家財難具助力て所付三文の頃寄く已門
舎へ掲け色小源八分と只獨妻小沈く度も厚く吃と思ふ源八分
あるは源八分今こそ我身も板と防刃岩本の味主二宮甲斐も
の二男妻もく孤縁し小佐我殺が女られ高家壯士垣口妙さ小ま交付
と懸止を死中か一を刃恨く家交其泉汁替懐と教せ人ら有危
かた然と権果とに國を双の武流若と聞る從心と速くも付人幸
甚毒し孝小遠腹あはれ日比念さる金毘羅大権現く納松孤をて
男子孤縁人志まば書育し父の仇と付をべし孝小遠腹ある幸と初是
自然欲の疑念孤生せば是亦一大幸さる去を及の思義中と皆けと



實任和尚
 神化
 畫



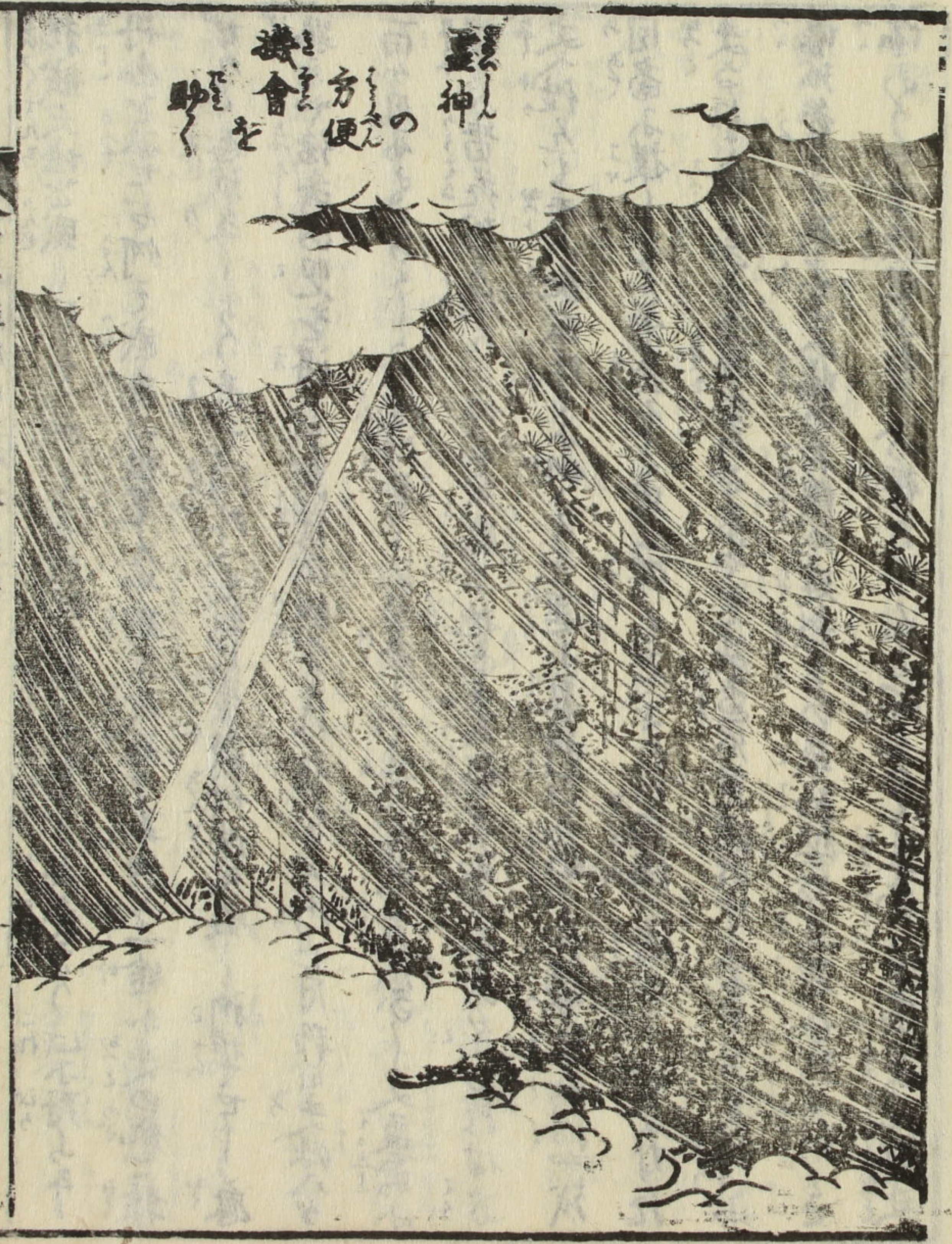
あり安と因て一とく、寧任情あぐ、某潔潔夏勤のわ外人も接
に大小の車勢悉く都寺に倍々委曲用事あつた方丈へかへし
也善く一重く委わつて他人よりさふ御ふりては、倍々其
系るへし、也云は、庭を用く神くせ入る、机の前に進む、其
長七尺、小好、大の法作、面皴甚怪偉ある、一人の赤子を抱き、かた
頭心金毘羅大持現の使者あり、抱く、也の思と、氏若、八つ子形り、か
顔を懐せしども、未時あつたれ、成就あり、先雅く、成長の同貴、倍小、院
終つらうと云、終く、赤子、孤室、在が、勝小、赤と、異人、と立、居く、之、バ、愧、惚と
羞、覺く、燈、籠、函に、懸、りて、困、眠、小、對、會り、寧、任、和、者、茫、然、と、し、て、其、羞、の、由
を、と、知、れ、公、理、深、く、猜、疑、が、情、に、し、が、後、也、お、く、心、羞、さ、る、事、と、知、り、之、小
神、靈、邪、我、さ、る、な、ぞ、知、下、ける、新、就、樂、女、平、産、の、後、邊、隣、聚、く、京、代、分、他

かか、一、夜、移、く、七、夜、も、た、て、と、母、子、を、難、小、産、所、を、難、且、表、意、小、酒、飯、と
及、希、邊、隣、と、抱、く、後、分、り、け、る、小、酒、宴、守、小、及、ん、ど、一、人、樂、女、お、じ、う、い
幼、児、の、名、孤、身、一、人、樂、女、を、希、く、思、小、子、お、あ、ま、い、各、後、も、知、り、し
や、く、は、見、の、父、不、意、の、死、小、違、れ、も、六、善、提、の、た、先、成人、の、後、也、出、家、と、せん
か、由、へ、倍、小、同、く、幼、名、を、辨、き、う、と、さ、ふ、ら、り、せ、倍、と、若、く、う、の、中、母、と
年、が、あ、つ、た、男、は、思、孤、出、家、と、せん、との、事、道、程、を、極、さ、り、去、後、が、う、各、々
て、と、幸、國、だ、一、婦、子、小、生、れ、く、出、家、け、を、何、は、六、其、名、孤、身、と、倍、小、倍、若、を
也、倍、ん、と、い、う、小、也、之、也、六、後、産、然、だ、と、そ、若、毎、小、入、く、者、も、倍、列、の
酒、宴、小、倍、を、受、く、た、わ、け、け、り、し、て、は、見、と、倍、さ、る、事、と、知、り、け、か
盤、神、奇、瑞、の、活
孝、子、親、瓜、抱、く、始、火、隣、村、小、走、忠、臣、君、不、奉、く、盤、石、間、道、公、墨、是、皆

盤石間道公墨是皆

雲神
の
方便
の
會
を
助
け

雲神の方便の會を助け

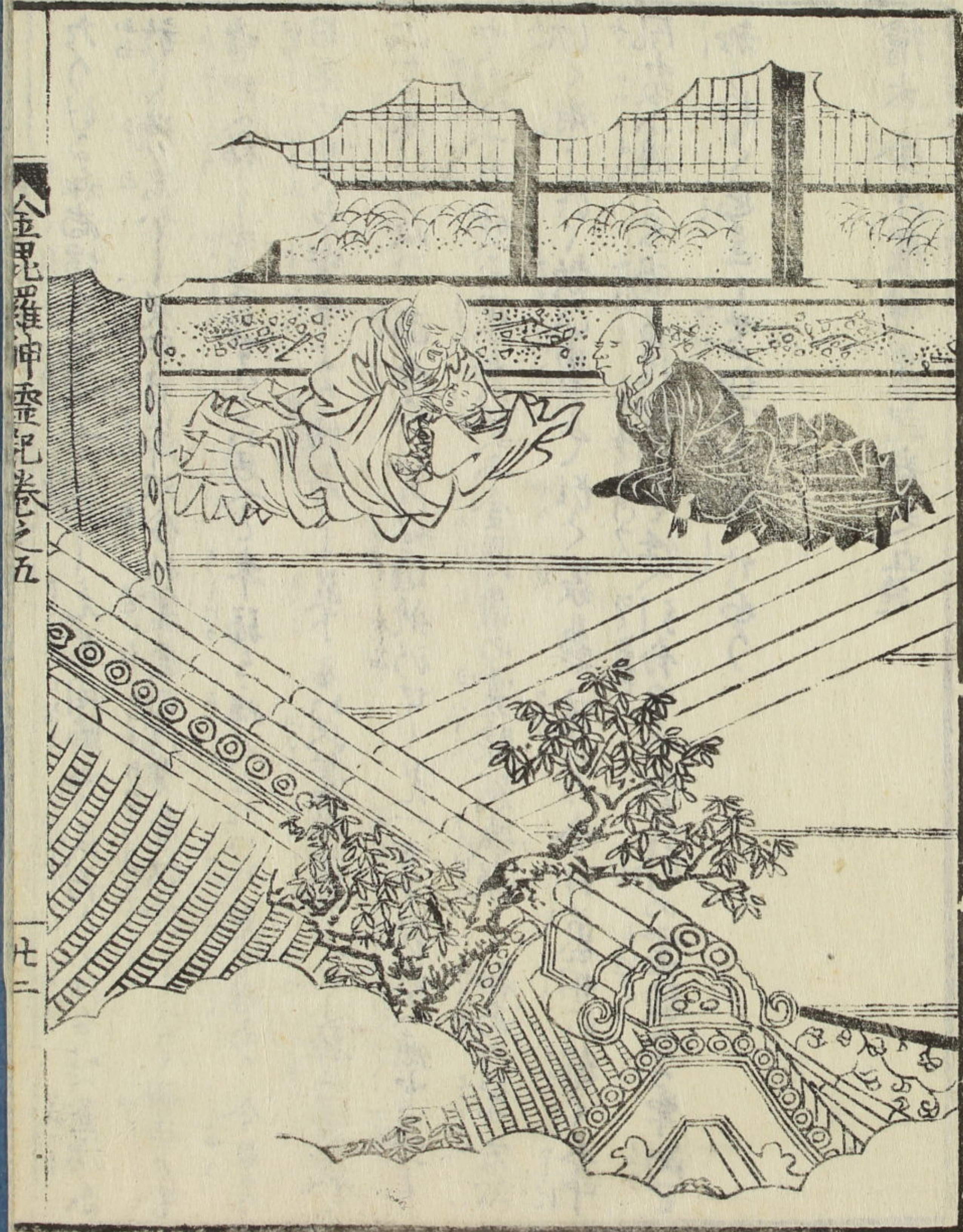


持彼天地之感一即令之神も亦天地の持英衆く凝志するのけ小野うす
 丹心と必せど何七感慮の理そんや耶小民若々妻女々一途小丈の仇之報
 ぜん志孤立しより看て門外へも物多丹漆灰凝し新築せし應
 勢也や後秀の児を得く公のほ次斜るにたおまの月七日初日主源八が
 百々日あもあつうう六佳後あつて公とあしてあくの供養あつて又墓あふ
 猶く香花灰も儀んと坊を灰膝小抱き書慰むへあう今の身あはけ方
 丈へ性んも丈の犯灰流る小似うと運小墓所小入新しん塚率於傳勢
 目當小搜しん是せ丈ぞし思し碑も尺へんらる佳一處小い世よな尺
 丈さるも碑ぞとて建せんざあや中其色灰見波以中小言二三尺許小
 塚孤築こ其上小又場石塔灰建教多の率於安灰立連ひ乃る勢と
 塚あつてあつたせふあつ人の碑かゝんと何をうく之妻尺も其法跡史

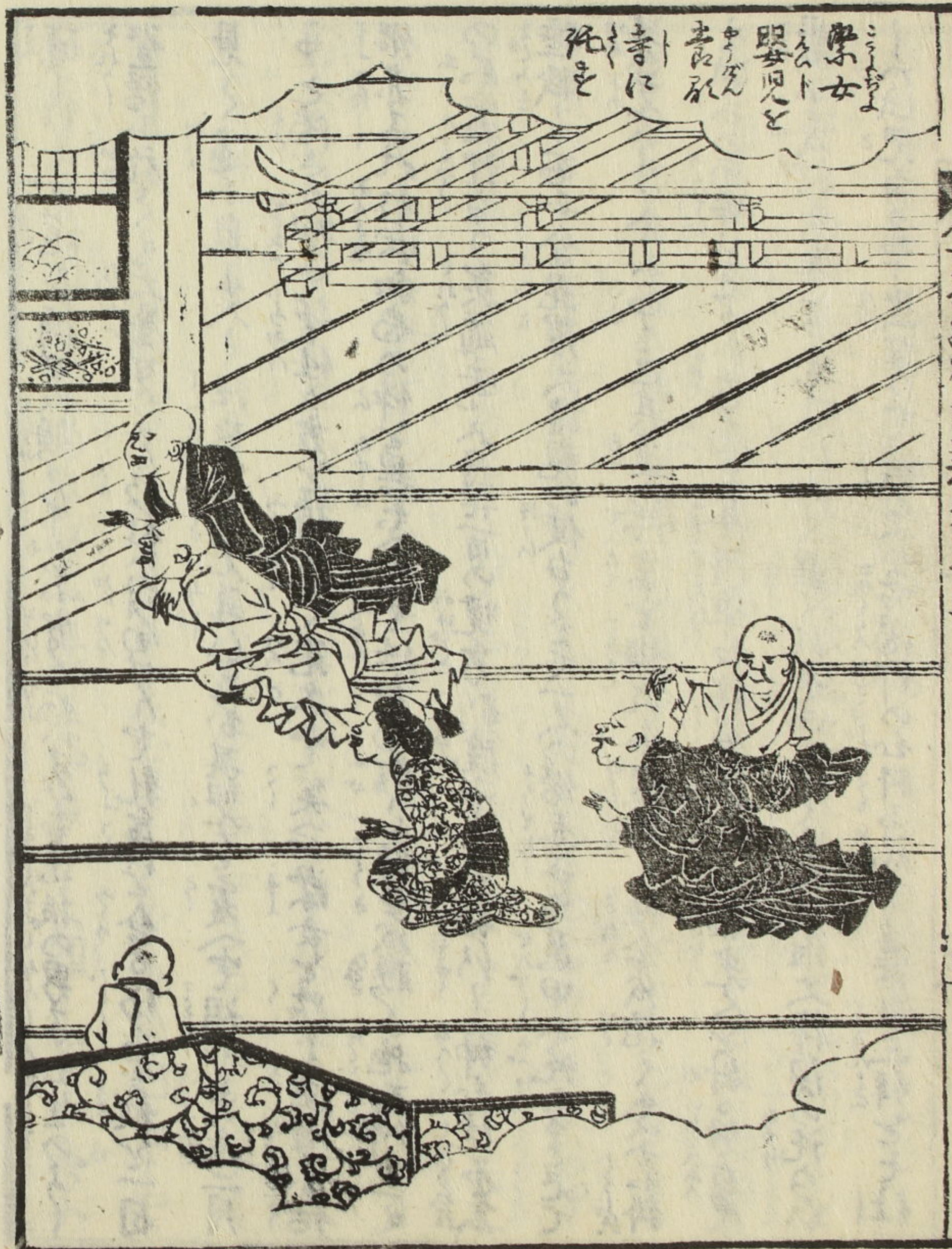
小門トけき心怪と背面を見まは親應三年二月十八日率以信名氏
 源八やあつるせう潔女着の心怪して方丈のう灰あつて世小丈尺丈源八と
 勢計の汚帛小額る率言思忘れけつ下中中ひ千万の礼社を速
 取く石塔の灰は踏踏坊を灰膝小抱き書慰むへあう今の身あはけ方
 と石塔のお小尺是をせ汚身の還報子何れは靈魂此思小力と保く
 成長の後款塚に灰封たる灰後世も揚さむ後中流るがけ初念し又
 身と抱して頭山と違あし一命頂礼金毘羅大権現父亡靈信
 くも小は見灰擁護し後小離塚に灰首尾灰封せ信是を一公不礼有
 新築とせし起上らんせせし處小晴天城小うれ曇る南のうさう
 一陣の暴風吹来り法本灰倒し去ゆと飛とせ驚く一毒の毒瘴
 頭上小蓋るがううあつた坊と抱志免地上小依は坊と急降と縮

齒爪齒志先く息絶たり樂女の外驚き産様の身成忍れりく三つせし
神對り去あむ妻身と代りては思成蘇生かうし先方と再び新世を
する間も形方とて泣けりと爲く須臾も雲晴風靜を日影返り明ら
ぬくは物も小駭と寺内の僧侶は僕等裏所へ来り坐す女成七結之り
何國の人ゆく何故は去るは有る今又斯く處と物もあむ其故は中
や口く四ハ樂女今ハ色をたれり形く妻と民皆保ハが妻もく信分今日亡ま
の百分目小高き遠服子此孺子と懐き妻をせし折うる候ふハ風霹靂可
出合たりや形くをた一人の僧侶と民皆保の内室あるはあは庫裏小入
て体いり之和也若も若中さんや怒小りしはより樂女もいふみ終り從く
庫裏小入を定任和也斯と聞庫裏小之出其えハ民皆保の内室とや
言る言未對面小はは春以末迎郷小極りハ六圃ハが事終小

際れくも信を通せん頗る中あ小ぢり何いなる遠後の男も出生のう
聖僧小於くも大慶せり若ぬ其對面せんや乳房と合る坊をが教と一目
見く遠小奥小入く法衣成更先再いなる其見を愛へ中河おき未二月
中と隔る知子定任う方と折向く完小や笑ハ樂女と若先垂垂小傳
侶赤子ハ形状和也の体と異系小定任和也故く坊を成勝小抱取何は
の不震理する美道去ハ二月十日の曉方別院中在く勅行し神公徳不云
睡眠し亦小金毘羅大権現の便りて一人の僧赤子孤其甲小死らるを以て
爰見たり今小あむと其愛の心妄と辨はを裏深く疑念成抱くも小不科
もけ子の面体とるる小方面大耳降準に瑞眉法秀て眼老人と對る勢有て
曩小爰見不見る赤子いも異は是正ハ金毘羅大権現の託の
ハは見るる事せりや傳のハ名湯作の玉肝小説ハ思ひ三辨と七仕



三ノ下
 梁女
 嬰兒と
 中ノ下
 寺に
 死を



たりの和尙坊を松葉女へ還し元來因縁ある民若氏の疏を以て盡す
於て津志かし説や符節次合れ靈妻の次子寺以捨棄し母も
寺中へ移し養育せんと思ふと年弱と婦人され外鬼も怪あり今日より
日用の費を寺中より納む一足下ぬ只管此鬼大切小指育む七
六七果にも及つて南寺へ引取仏道修せし先一世と勅に大徳中ぬべし
中懇小告夜を深き女更小金毘羅の靈験成感激し和尙の原を以て
深く謝しけり熱い勇まてけり家も移り今日裏所に於て石平
風家小遇しも尙も此和尙室任へ引合のふら神の靈験する事測り
知られし思ふべき事あり

繪本金毘羅神靈記卷之五終

